

GNOMES



お盆で久しぶりに一人で毎日すごしていると、なんだかみんな面倒になって、飯を食うのも面倒で、缶ビールですませずじまいます。大して体を動かしているわけではないので特別腹が減ってどーしようもないということもなく、まあ、普段から栄養水分とも過多の生活をしているから多少食わなくても問題は無い。食わなきゃいけないときはどーしても食いたくなると勝手に信じ込んでいますので、血圧も上がらない。

そんな中、千住に用があって、たまには本も読みたいし、違う本屋も見たいと思って電車に乗ったのですが、駅ビルの文具屋で単純な黒くてしっかりした作りの手帳に目がいって PlainNotebook(白紙)とあったので1500円もしたのについ

買ってしまった。黒い固表紙を開くと白いページがあるだけなのだが、こんなのを手にとると旅に出たくなってしまう。モンゴルのゲルの朝に火の前でうずくまって書いていたり、アリゾナの荒れ地を走る車の中で揺れながら書いたり、山の岩陰で書いていたたくさんの場面が浮かび上がってきて、この手帳をどこで開くのだろうか少し華やいだ気持ちになる。

帰ってから包みを開きながら能書きを見てみたら、Van Gogh and Matisse, Hemingway and Chatwin. と使用者の名前が書いてあったが、前はもちろん心を引かれるが、最後のChatwinと言う字を見つけて、これはブルース・チャトウインだと気が付いた。私はこの若い英国人放浪家が好きなのだが、正直他の人名と並べられるようだとは思っていなかったのだ。48歳でなくなった彼の遺作をここ数年常に卓上において、ぼつぼつと見ている。20代の青年の熱情と、人間に対するえぐるような目と、熟れつつある男の生き方がつまっている。角川書店から出している「どうして僕はこんなところに」と言う本だ。遺作集だが、本人がまとめた遺作集であり、文字の裏の心の揺らめきと遊びつつゆくりと楽しませてもらっている。改めて手帳を手にして「そうか、彼はこの手帳を握りしめて世界の隅を歩き、多くの人と話し合ってきたのか。」と古い友人にでも会ったようなごみがあった。

それと同時にこの青年のヨーロッパにおける知名度と日本での知名度の差を考えると、世界はこんなに狭くなったとテレビでは嫌になるほど言っているけれど、テレビカメラに写らないことはわからないし、広い世界なのだと、まだまだおもしろいものかも知れないと思い直した。その場に立ってみもしないで、わかった気になっているなんてつまらないことだと、またこの手帳を握りしめて歩いてきたい思いにかられた。

この日は千住で飲ましてもらって、ついでに近いうちにどこかへ遊びに行きませんかとささやいていた。さてどうなることか。

9月の「まなざし」の編集は18日におこないます。電子出版での絵本の作り方をまとめた絵本を作りました。こんど絵本の作り方教室をやろうと思っています。

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TEL/FAX 03-5600-0195 高村 哲 GnomesJpn@aol.com